

列王記に戻る前に、5月はマタイの福音書 24章からともに、考えたいのです。イエスキリストが教えられた終末についての記事です。

### 1. 見える豪華さに惹かれる人間（1～3）

- ①宮の建物 (1) 「イエスが宮に出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスが宮の建物をさし示した。」イエスがエルサレムの宮に出て行かれた時のことです。弟子達がイエスの近くにやって来て、宮にある大きな建物をさし示したのです。要するに、「イエス様、あの建物は何と大きいのでしょうか。圧倒されますね。何と豪華なのでしょう。彫刻などもこっていますね。」などと言ったかもしれません。
- ②堅固な石も必ず崩れる (2) 「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」ところが主イエスは、彼らに答えられたのです。「あなたがたは、地上の大きな物、豪華な物、力ある存在に驚嘆しているのでしょうか。しかし、まことに（アーメン）、あなたがたに言いますよ。これらの土台、その上に積まれている大きな石も、やがては必ず崩れるのです。ずっと残っているということは決してありません。」
- ③オリーブ山で (3) 「イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。『お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。』」さて、イエスがエルサレム郊外にあるオリーブ山で座っておられた時のことです。弟子たちには、質問する機会をうかがっていました。宮で聞いた衝撃的なイエスのご発言に対して質問をしたのです。弟子達は、終わりの時についての預言的メッセージについて、前兆はどんなことなのかと尋ねたのです。事柄の重大性はわかっても、実感はわきません。またどうしたら良いのかもわからないからです。

### 2. 終わりの日の前兆（4～7節）

- ①偽キリスト (4～5) 「そこで、イエスは彼らに答えて言われた。『人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。』」イエスが、終わりの日の前兆として挙げられた第一は、偽キリストが多く現れるということでした。「私が救い主だ」と言われると、不安定な人間の心は動かされやすいのです。本物と偽物を見分けることは、容易な時もありますが、難しい場合もあります。惑わされないように、よほど気をつけないと、だまされてしまうのです。
- ②主 (6) 「また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気を

つけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。」前兆の第二は戦争です。「何が原因であなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。」(ヤコブ 4:1~2)。しかし、主イエスは戦争やそのうわさがあっても、あわててはならないと教えられます。まだ、終わりの日が来たわけではないと言われます。

③飢饉、地震 (7)「**民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。**」民族と民族、国と国はそれぞれの誇りと守ろうとするものがあり、敵対関係が生まれるのです。前兆の第三は第二と重なりますが、民族間、国家間の敵対関係です。前兆の第四は飢饉です。すべからず人は食します。食料がなければ飢えます。聖書には飢饉記事がいくつかありますが、ここにある飢饉は終わりの日の前兆としての飢饉です。前兆の第五は地震です。キリストが十字架上で息を引き取る時に、地が揺れ動きましたが、終わりの日の前兆の地震も、罪に対する主のお怒りの現れでしょう。地震が多いこの国の民は、地震の恐ろしさを知らされています。しかし、終わりの日を察知することにはあまりつながっていません。

### 3. 最後まで耐え忍ぶ者は (8~14 節)

①迫害 (8~9)「**しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたたはすべての国の人々に憎まれます。**」上記のことは、重要ですが、産みの苦しみの初めだとイエス・キリストは言われます。終わりの日がやってくる時の六番目の前兆は、主を見上げる者たちが、迫害を受けるというのです。単なる苦しみではなく、場合によっては命を落とすことになるというのです。さらに、キリストを信じる者たちは、憎まれるようになるというのです。「義のために迫害されている者は幸いです。」(マタイ 5:10)とありますが、終わりの日は、信仰者たちの信仰が深まる時であるかもしれません。

②偽預言者、不法、愛が冷え (10~13)「**また、そのときは、人々が大ぜいがつまずき、互いに裏切り、憎み合います。また、偽預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。不法がはこびるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。**」一方では第七の前兆として、多くの人々がつまずき、裏切り、憎み合いが横行するというのです。第八は、偽の預言者が人々を惑わすというのです。第九に不法がはびこり、多くの人々のうちの愛が冷えるというのです。しかし、そんな中でも、主への信仰を

忘れずに耐え忍んでゆく者は救われると、イエス・キリストは言われます。

③福音が伝えられ (14)「**この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。**」第十の前兆は終わりの日が来る前には、御国の福音が全世界に宣教されていくというのです。すべての国民に証しされていくというのです。

《結論》聖書が教える世界観、歴史観を確認します。創造主なる神は天と地を造られました。天体のすべて、地上の自然、動物たちに続いて、人間をお造り下さいました。人間は神との約束を破り、神との関係に断絶が生じ、さまよう存在となりました。罪人なる人間は、神の定められた律法によって生きることになりました。罪の贖いのため小羊などをささげられました。しかし、人間の罪はいかんともしがたく、ついに神の子あるイエス・キリストが来てくださったのです。キリストは人々に教えられ、ご自分が救い主であることを示、愛の御業をなして下さいました。そして、十字架上で人間の罪の身代わりとして死んでくださり、三日目によみがえって下さいました。人はただこの恵みによる福音を信じることによって救われる道をいただきました。さて、主イエスは様々な教えと説かれるなかで、終わりの日についても語られました。終末について、キリストは明確にされているのです。

つまり、天と地は主なる神によって創造されましたが、天地はやがて終わりの日が来るというのが、聖書の教えなのです。終末については書簡においても示されていますし、ヨハネの黙示録においては、さらに詳細に語られています。今朝、私達はその終末の前兆について、主からの教えられた部分についてみてきました。偽キリスト、戦争、敵対、飢饉、地震、キリスト者への迫害、つまずき、偽預言者、不法がはびこり、愛が冷える、福音が広く宣教されると言ったことが、キリストによって語られました。

現在、私達はこれらの前兆の一端を現実に見せられています。たとえば、戦争については日々はその深刻な知らせを受けています。主は、だからといって、終わりの日が近いと言ってあわててはならないと言われます。しかし、もう一面で戦争についての知らせを受けている私達が、戦役の様に憂慮するだけで、終末について思いを馳せないとするならば、主の教え軽んじることになります。偽キリスト、偽預言者のことを聞き、天変地異のことを聞く時にも、終わりの日を見失わずに、現在を生きる視点を持つことが必要なのです。終末を見据える信仰が教えられているのです。

今朝、一つのことに注目しておきたいのです。愛が冷えるという点です。それは、つらいことです。氷のような心が往来していくというのです。夫婦の間に、親子の間に、隣人との間などに、愛が乏

しくなっていくというのです。自己中心がますます広がる。人のために配慮する心が持てなくなってしまう。そうしたことが現実に広がってくれば、何よりも恐ろしいです。あなたはいかがですか。私は、自らの愛が冷えていると思います。忍耐する心が弱まっています。今こそ終末を深く意識せねばならないのです。愛の欠乏を意識する今、私たちは、愛の源である方に心に向けていく必要があるのです。人間に愛を求めるのではない。神を慕い求め、愛をいただいでいくのです。福音にたちかえり、キリストの十字架の愛をいただいでいくのです。そして、キリストの愛の福音を広げていきたいのです。冷えていく愛を温めるのは、キリストによるしかないのです。また、クリスチャンが愛し合うことは、何よりの証です。「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13:14)